

第4回日韓テラヘルツテクノロジーワークショップ開催報告

静岡大学創造科学技術大学院 廣本 宣久

テラヘルツテクノロジーフォーラム主催、Korea THz Forum 共催で、2011年12月19日-20日に名古屋大学野依記念物質科学研究館を会場として、日韓合同のワークショップ（The 4th Japan-Korea Joint Workshop on THz Technology）を開催しました。

このワークショップは、第1回が2007年韓国ソウルのKISTで、第2回が2008年東京で開催され、2009年はIRMMW-THz2009国際会議が韓国ブサンで開催されましたので1年飛ばしで、第3回が2010年韓国ブサンで開催されたのに続くものです。

ワークショップは、阪井会長とKISTのJeong-Il Lee博士のオープニング挨拶ではじまり、2日間に亘り、テラヘルツ分野の新しい研究成果および研究開発の現況について、日本から10件、韓国から10件の口頭発表がなされ、熱心な質疑が行われました。韓国のいくつかの研究機関で、強力なテラヘルツ光を発生するために、積極的に大型の装置を開発していることが印象的でした。また、テラヘルツ帯の半導体デバイスやテラヘルツ顕微鏡などの新しい研究も目に付きました。

ワークショップには、事務局と名古屋大学の学生を除いて、韓国からの12人を含め、34人が参加しました。19日の夜には、会場で立派なバンケットが行われ、地酒も出されて、楽しく有意義な日韓の交流ができました。また、その後の名古屋大学エコトピア科学研究所の幹部の先生方のご厚意で貸し切っていた、二次会会場の栄のピアノクラブでは、副所長の先生と川瀬先生から達者な韓国ソングの披露があり、韓国からの参加者との文化的交流も十分にできました。

今回のワークショップは、不肖、廣本が組織委員長、大谷知行博士とKorea Maritime Univ.のTae-In Jeon博士がプログラム委員長、川瀬晃道先生が現地実行委員長、谷正彦先生、芦田昌明先生、齋藤伸吾博士が事務局を担当され、年末のたいへん忙しい中でしたが、成功裏に開催することができました。会場運営では、名古屋大川瀬研の川瀬桃子氏、竹家啓先生、トリパティ・サロジ博士はじめ学生諸氏、大阪大の藤田香織氏、理研の湧井好美氏にたいへんがんばっていただきました。

ワークショップの間に、日韓のフォーラム関係者でワークショップの今後について会議が行われ、本ワークショップはこれまでに、日本の協力でIRMMW-THz2009が韓国で開催されるなど、日韓の間でテラヘルツ分野の親密な友好関係の構築、研究交流の実績ができましたので、次のステップに移るべき時期と判断し、日韓合同のワークショップは今回を最後とすることとして、今後はこれまでの友好関係をベースに、必要に応じて個々の案件ごとに相互に協力し合うことを確認しました。

